碁老連ニュース　第49号

碁老連の目的

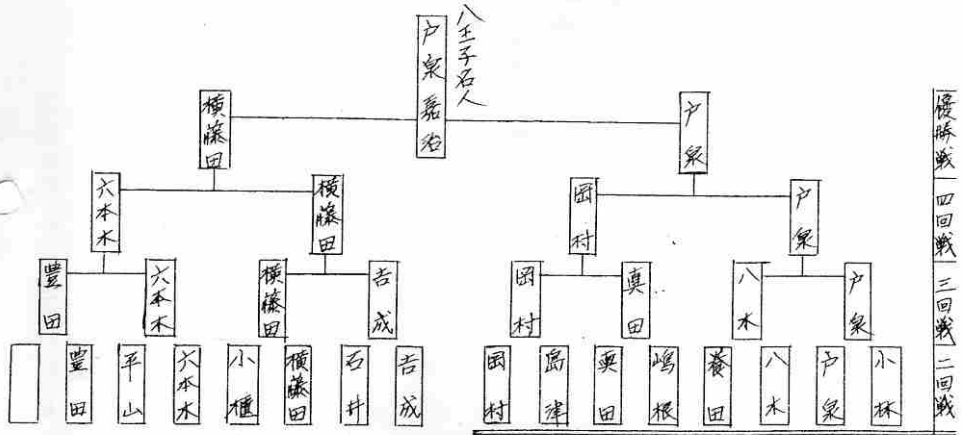
ボケ防止のために，老人囲碁同好者の誰もが〝碁を楽しむ〟ことが出来るよう，機会と場所を確保するために相扶力し，囲碁を通じて親睦，を図り，更には，より良き福祉社会の建設に貢献することを念願とする。

発行日　平成6年2月8日
発行所　八王子の碁を楽しむ老人連合
〒193　八王子市初沢町1434-46
TEL　(0426) 66-3754
発行人　熊崎正一

第1回碁老連タイトル戦

日時	平成6年1月30日午前9時
会場	総合福祉センター（東浅川町551-1，電67-1331）
主催	八王子の碁を楽しむ老人連合（碁老連）
後援	財団法人日本棋院
協賛	NTT八王子支店
タイトル	八王子名人（日本棋院杯） 八王子王座（NTT八王子支店杯） 八王子天狗（碁老連杯）
参加資格	地区タイトル保持者
会費	500円（弁当，パック茶含む）
競技成績	次の通り

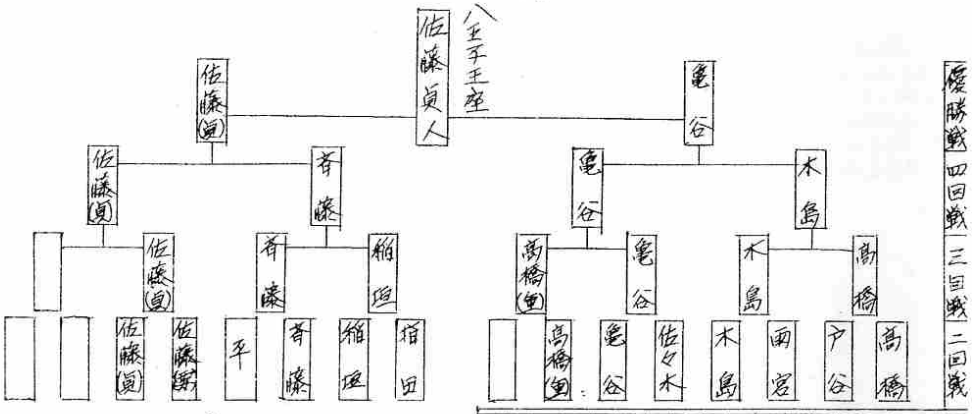
名人戦



NO.	氏名	段
16		
15	岡村吉人	4
14	島津仁	初
13	豊田弘伯	4
12	平山智之	4
11	真田誠次	7
10	嶋根昭	初
9	六本木茂	2
8	小槻久平	2
7	養田高尾	5
6	八木義光	4
5	横藤田正	2
4	戸泉嘉治	3
3	石井正之	3
2	小林富男	2
1	吉成進	6

王座戦

八王子王座



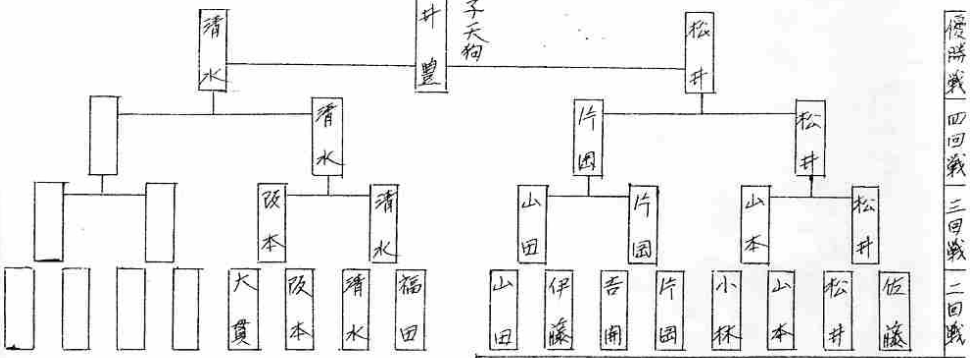
↑敗者復活戦（一回戦のみ）

優勝戦 四回戦 三回戦 二回戦 一回戦

NO.	氏名	段
1	指田信也	4
2	高橋實	5
3	戸谷富男	3
4	稲垣良夫	2
5	西宮久德	4
6	斉藤好美	4
7	平辰雄	2
8	木島洋治	6
9	佐々木俊郎	2
10	佐藤要吉	5
11	亀谷一郎	3
12	佐藤貞人	5
13	高橋重二	7
14	藤田林美	4
15		
16		

天狗戦

八王子天狗



↑敗者復活戦（一回戦のみ）

優勝戦 四回戦 三回戦 二回戦 一回戦

NO.	氏名	段
1	福田喬	3
2	佐藤文貞	初
3	松井豊	2
4	清水勇	4
5	山本林	3
6	阪本勝	5
7	大貫佐一郎	初
8	小林晃	4
9	佐藤利光	3キン
10	片岡健一郎	3
11	吾開孝之	2
12	山村英二	初
13	布果佐介	4キン
14	伊藤栄一	7
15	山田明	2
16	田辺覚	初

第4回ボケ防止のための啓発囲碁元八王子大会の開催案内

日時	平成6年3月13日午前9時
会場	元八王子市民センター（上壱分方町747-1，電51-3960）
主催	元八王子碁囲碁同好会（会長 高橋實，下恩方町1168，電57-6753）
共催	八王子の碁を楽しむ老人連合（碁老連）
後援	八王子市，八王子市教育委員会，日本棋院
参加資格	市の元八王子事務所，恩方事務所及び，美山町に在住している60才以上の囲碁同好者（10級以上）
参加費	600円（弁当代を含む）
特典	成績により千葉大会に推薦する。 (1)，8月7日開催の碁老連八王子大会 (2)，9月開催のNTT敬老囲碁大会
参加締切	開催日の1週間前（必着）とする。

団体対抗戦参加者（1回戦2月20日）

行政別	段	氏名	行政別	段	氏名	行政別	段	氏名	行政別	段	氏名
後川			中野			北野			田井		
6級	7	奥田誠次	6級	6	長沢富雄	6級	7	伊藤英一	6級	6	藤井敏
5	5	長谷川忠	5	5	中田勲	5	5	山本徳美	5	5	荒井進
4	4	小林昇	4	2	牧美登	4	4	山本金四郎	4	3	徳田勇
3	3	大沢保雄	3	2	米谷木内	3	3	金田收	3	3	堀義三
2	2	小林富男	2	2	石山徳義	2	2	水野豊夫	2	初	安田政治
初	初	折井巌	初	初	石橋一馨	初	初	柏松田節	初	初	吉田国男
元八王子			大和田			田木			長房		
6	7	山下則文	6	6	長谷彦路	6	6	吉成進	6	6	小西徹
5	5	荒原正林	5	6	藤井忠岡	5	5	松田栄	5	6	小川秀
4		清水勇	4	4	栗田孫伯	4	4	熊谷幸	4	3	戸谷吉美男
3		西山孝二	3	3	安藤久雄	3	2	雑垣良夫	3	3	石井正之
2		清水一郎	2	2	石黒佐介	2	2	大野安三	2	2	坂谷照男
初		山田明	初	初	佐藤文夫	初	初	大貫佐一郎	初	初	望月吉郎

注：上下2ケームが対戦する，上段が主催ケーム

地区別王座決定（前期）

地区別	段	氏名	地区別	段	氏名
後川	7	奥田誠次	田井	弁初	吉田国男
元八王子	5	延平和夫	田木	2	佐々木俊郎
中野	3	藤沢昇	北野	2	水野豊夫
大和田	2	根本忠紀	長房	3	石井正之

読売新聞（6年1月16日）

お年寄り42人がなごやかに

立川で囲碁大会

立川市曙福祉会館（曙町）でこのほど、六十歳以上のお年寄りを対象にした新春囲碁大会が開かれ、同会館所属の「曙囲碁クラブ」のメンバーら市内各地の四十二人が腕を競い合った。

大会は、家に閉じこもりがちなお年寄りに親交を深める機会を提供しようと、同市福祉部が初めて主催。

五段から初段までの上級者が対局。Aクラスで優勝した阿部忠夫さん（六九）は「和やかな雰囲気で楽しく打てました。碁を通して交流を図れるのはいいことです」と話していた。囲碁歴六十年で八十八歳の最高齢参加者の音尾且夫さんは「週四回福祉会館を利用しています。碁は本当にいい趣味で、いい仲間と知り合えました」と喜んでいた。

対局する阿部さん（右）

（3）

日本棋院6段
関根直久先生

平成6年1月30日

八王子の碁を楽しむ老人連合
会長 熊崎正

拝啓 前略御免下さい

ボケについての先生の御見解をお伺いする件

棋道の平成6年1月号で、「碁を打つとボケない」とのタイトルで、先生は次のように記述をされておられます。

1, 上達を望むなら早く打て
勝ちたければ考えて打ち、上達を望むなら早く打つ。

2, 右脳の着手、左脳の着手
瞬時に浮んだ手を（右脳の手）、熟慮の手を（左脳の手）と呼んでいる。

3, 決断力の鈍さは上達の妨げ
勝つことより、碁を楽しんで打って貰いたい。

等々を拝読させて頂きましたが、御意向の真意が理解出来ませんので、碁老連の現状を下記により御報告し、先生の御指導を賜りたいと存じますので、御多忙中恐縮ですが、よろしく御願い申し上げます。

記

碁老連では平成3年より6ケ月期間の研修会（有級者40名、級位者40名計80名）を開催しており、現在第今回研修会を実施中で、指導方針は次の通りです。

1, 相手が打ってから、5秒間は石を握らないこと。
2, 対局中は、相手の打ち碁を批判しないと同時に自分の打ち碁に対する反省を声に出さないこと。
3, 同一相手とは3回以上対局しないこと。
4, 打ち込碁（3回手直り等）は禁止し、段割対局を励行する。

以上のような方針も碁を打つ事の楽しみを十分に味って頂きたいと云うのが本意ですが、年を取るに従い気が短かくなり、ポンポンと勘打ちをする老人が非常に多いので、碁石を置く前に必ず、相手の受け手を想定して先手をとる事や生き死にを優先に全局のバランスを考えながら打ち手を決めるよう指導しております。

この件に関しては、プロの方については判りませんが、吾々アマチュア特に老人にとっては、勘で打つと云う事は、初段は初段の力以上のものは出せませんが、考えることにより2段、3段の手を発揮する可能性もあり、必然的に上達して行く過程を辿るのではないかと考え、又、考える事がボケ防止に役立つものと信じているからです。

御参考までに、その根據について御報告しますと、碁老連会員（現在31名）が昭和63年9月以来、平成5年末までの期間内における高段者の対局数を分析致しますと、下記の通りです。

尚、分析基準は次の通り。

長考 1局51分以上、慎重 1局31分～50分、早打ち 1局30分以内

記　　2,

7段～4段会員の対局時間調査

（昭和63年9月～平成5年12月）

現在	参加時	計	早打ち	慎重	長考
7段	5段	3人	人	1人	2人
〃	6〃	3		2	1
〃	7〃	1	1		
計		7人	1人	3人	3人
6段	4段	2人			2
〃	5〃	11	1	6	4
〃	6〃	4		3	1
計		17人	1人	9人	7人
5段	3段	3人		2	1
〃	4〃	10	2	5	3
〃	5〃	12	6	6	
計		25人	8人	13人	4人
4段	2段	4人		1	3
〃	3〃	12	4	4	4
〃	4〃	9	2	4	3
計		25人	6人	9人	10人
合計		74人	16人	34人	24人

注：平成元年，各地区の碁囲碁同好会開設時に多人どの会員と対局しておりますので，その時の印象とボケ防止大会参加時に拝見した印象を基に分析したもので，誠に拙稚なものでありますから適当に御判断下さい。
尚，新規参加者は含まれておりません。

以上，申し述べましたような次第ですが，先生の御意見によりますと，小生の指導方針は根本的に間違っていた事になり，今後，会の運営方針を変更せねばなりません。
誠に申し兼ねますが，ボケに関する先生の御意見を指導された医学専門の先生を御紹介願けませんでしょうか。
早速御伺いして御教示を迎えつもりでおります。

敬具

追記

老人は70才を過ぎると年毎に勝敗に拘泥する人が多くなり，勝つことに執念を燃やし，碁を楽しむ心境など薄れて行くように感ぜられます。
然しながら，このようなファイトが老化防止やボケ防止に好い影響を与えているのかも知れません。

1.

細川内閣総理大臣殿　　平成6年1月10日

八王子の碁を楽しむ老人連合
会長 熊崎正一

謹啓　早速ながら失礼します。
此度，碁老連ニュースの年頭の所感にて，御貴殿への提言として，下記の通り申し述べておりますので，よろしく御願い申し上げます。

記

(1). 首相は新年初頭，"21世紀ビジョンで，高令社会福祉を提唱"「高令者保健福祉十ヶ年戦略（ゴールドプラン）を根本的に見直し，介護休業制度を充実」と発表されている。
この際，ボケ老人の予防対策を検討するよう指示して頂いたら如何なものでしょうか。

(2). 昨年末，厚生省案として，老人の入院食費有償制度が発表されましたが，入院した老人が，食事費無料の特典に対し，どの位い感謝し，有難味を感じているのか，計り知れないものがある。
即ち，それは生活に直結しているからである。
厚生省のお役人は何も判っていない。
やるべきことをやらないで，金が足りないから老人の食事費を削る等，全くけしからん話である。
高令~~社会~~社会福祉を提唱されるなら，先づオ1に考へて頂きたいことは，老人生活の充実を図ることであり，老人の生活不安を招来するような施策が実施されるようなら，首相の主張も空念仏と受けとられ，老人間の人気は雲散霧消を免れません。

(3). シルバーパスの発給制度を全国的に拡充実施を期待する。
現在，東京都で実施しており，老人福祉としては貴重な制度で，最大の功績を奏うせている。
即ち，従来は家庭に引き籠り勝ちの老人達が，積極的に対外活動を展開し，ボケ防止対策としての実績を挙げている。
最高の施策として推賞されるべき制度であると存じます。

国務御繁多の折りに，このような些事に関し，書状を差し出す等，非常識極まるとの御叱りを覚悟の上での振舞いにて，誠に申訳ございません。
何卒，御寛容の程伏して御願い申し上げます。
先は，進言まで申し上げます。

頓首

(6)

大内厚生大臣殿

平成6年1月10日

八王子の基老連ニュースを読む老人連合
会長 熊崎正

拝啓 早速ながら失礼します。
此度、基老連ニュースの年頭の所感にて、御貴殿への提言として、下記の通り申し述べておりますので、よろしく御願い申し上げます。

記

(1). 昨年の12月18日、朝日新聞の「主張・解説」欄に、有岡二郎編集委員殿の"高令者介護の新制度づくり、財源確保が難問"との記事（別紙添付、末尾8頁）が掲載されました。

イ. 平成5年発表、約130万人の高令者が介護を必要としており、2000年（平成12年）には、200万人近くになると予測されている。

ロ. 国民の半数は、「寝たきりや、痴呆になったときのことが、老後生活の最大の不安だ」と云う。

(2). 平成4年12月18日、読売新聞の「'93年の潮流」欄に、解説部水巻中正殿の"介護体制の確立待ったなし、急増する痴呆老人"の記事（別途添付の基老連ニュース第37号に全文掲載）

イ.「18年後213万人に」、「かさむ施設建設、人権費」

ロ. 今秋、東京で開かれた「第3回高令者ケア国際シンポジューム」で、厚生省の横尾和子保健福祉局長は「全国3,300の自治体のうち高令になっても困らないと云うのは1.2%、何らかの取組みを始めているのが約10%」と報告された。

前記2件に示されているように、老人介護関係に苦慮しているにも拘らず、ボケ防止問題が俎上に登らないと云うことが、何としても不可解である。

厚生省が、ボケ防止問題を採り上げないのは、アルツハイマー病が未解明であることゝ、治療は金になるが、予防は金にならないのでお医者さんが余り乗り気にならないこと等が主な理由ではないかと拝察しておりますが、下衆の勘繰りでしょうか。

(3). 医学専門の諸先生方が、"ボケ防止は可能である"と著書で発表し、或いは、新聞、雑誌、テレビ等で盛んに公表していらっしゃるが、この事実をどのように受け留めているのか、お伺いしたいものである。

国務御繁多の折に、このような書状を差し出し誠に申訳ありません、悪しからず御容赦下さい。

先は、進言まで申し上げます。

敬具

(7)

性人老痴呆

朝日新聞 6.1.16

早く見つけ、脳働かす

まず5千歩以上の散歩を

病気にかかれば病院で治療を受ける。当たり前のようだが、それで治るとは限らない。手遅れにならないためには早期発見、早期治療が大切だ。高齢化社会を迎えて深刻さを増す老人性痴呆（ちほう）だって、早くから手を尽くせば症状も軽くなる。二度と生えてこない歯や若者のエイズなども同じだ。しかし、それはお医者さんに任せっ放しでできるわけではない。患者自身や家族の注意や努力、協力が欠かせない。そして、それにはコツもある。意外に知られていない、病気を軽く乗りきるあの手この手を紹介しよう。

（編集委員・田辺　功）

本人や家族にテスト結果を示して話す金子満雄副院長＝浜松市富塚町の県西部浜松医療センターで

「ぼけが治らないのは気づくのが遅すぎるからですよ」

浜松市営の県西部浜松医療センター、金子満雄副院長（脳神経外科）は断言する。

老人性痴呆ほど、一般の人はもちろん医師や研究者にまで誤解されている病気はない。遺伝子異常や脳血管障害が原因で治癒の決め手はないとされがちだが、八年間に七千人もの患者を診察してきた金子さんたちの調査では、遺伝性のアルツハイマー病の人は患者全体の〇・三％しかいなかった。脳卒中後、半年以内に痴呆になった人もたかだか四％程度だった。

実際には、脳を使わなくなったための廃用性萎縮で痴呆症状になった人がほとんど。症状は数年がかりでゆっくり進んでいく。

「だったら、早めに見つけ、脳を活動させれば良いじゃないか」

金子さんは週二回、朝から夕方まで高齢者脳精密検査外来で患者を診ている。ここへ来た患者は、「浜松方式」と呼ばれる痴呆の早期診断テストを受けさせられる。

テストは神経心理士の高橋紳二さんらがする。痴呆を調べるには欧米で広く使われているＭＭＳテストという検査がある。月日や時刻、居場所を聞き、簡単な計算をさせたりするものだが、ここのテストの特徴は「かな拾い」だ。

ひらがなの文章を読ませ、内容を覚えさせながら、中に出てくる「あ、い、う、え、お」だけに〇をつけてもらうというものだ。

テストは金子さんらが十数年前に、交通事故などによる大脳前頭葉の傷害を調べる目的で開発した。

金子さんたちの研究によると、ＭＭＳテストで異常（痴呆）の人はかな拾いテストの得点も極めて低い。ＭＭＳテストが正常でもほけかかった人は、その程度に応じてかな拾いテストの得点が下がっていくことが分かった。二つのテストを組み合わせることにより、痴呆レベルが把握できるという。

かな拾いテストだけが少し悪い「前痴呆」（小ぼけ）の人は、小学二年生程度の状態で、社会生活上は支障があるが、身の回りのことは自分でできる。

さらに進んだ軽症痴呆（中ぼけ）は、幼稚園児程度の脳の働きになった状態で、日常生活でも支障が出る。

ＭＭＳテストで異常なら重症痴呆（大ぼけ）で、普通の病院ではここから痴呆として扱われる。入園前の幼児に相当し、身の回りのことも十分にできず、回復もほとんど期待できない。

金子さんは、前痴呆、軽症痴呆の人には脳のリハビリテーションを勧める。

まず一日三十分、五千歩以上の散歩、そのうえで趣味やゲーム遊び、スポーツ、友だち作り、など。

実行するには家族の協力が必要だが、患者の二五％は症状が改善し、五〇％は進行が止まっているという。この考えを取り入れたリハビリ合宿や、自治体主催のリハビリ教室もでき始めている。

「痴呆は家族の病気なんだよ。親を構わずに放っておいたからね」「独り暮らし、会話のない年寄り夫婦はぼける」「人間はごろごろねてちゃだめ」「機械的に草をむしったり、介護などでいやいや体を動かしてもだめ。楽しくないと脳はぼけるんだ」「仕事も趣味も他人との交際もない人はぼける。脳は用事がなくなると縮んじゃう」「俳句や碁、将棋で頭を使ってる人にぼけはない」

診察室で聞いた、ぼけ防止の金子語録である。

（8）